Laudato Si' sisters in Japan

2021年度JPIC目標の実践に関する報告会

（2022年2月19日 13:00～15:00）

聖心会

今回、新型コロナウイルスの蔓延の恐れのただ中にあって、私たちは、オンライン形式でJPICを共に生きている日本管区の全ての共同体のシスターたちとの分かち合いが可能になったことは、不思議な、神様からの計らいであったと感じました。
「みこころの想いで地球環境や命を大切にする目標」は、各共同体で作り、約8カ月掛けて実施、以下は各共同体の報告の一部です。

1. 食材の過剰包装

食事用の包装に関して、包装プラごみは、6人分、二日間で、45リットルのゴミ袋に一杯！
「これは！何とかしないと！！」と目が覚めました。

2. 資源の再利用

新聞紙を折ってゴミ袋を作成。使用済みアルミホイルをガスコンロの下に敷く。再々利用。**継続は、力なり！！**

3.「土によみがえるかな？」

4. コンポストの実践

1）日当たりの良い所に置く。
2）生ゴミを小さくして、乾燥機に入れる。港区では、その機器の補助金が支給される。（暑いと虫もわきません。コンポストに当たる太陽の熱で、虫たちは、みんな天国へ）

5. PAL【生協】の利用

瓶、プラ・リサイクルだけでなく、購入時のポイントは、福島、難民支援にも使える。
☆おばあさんのつぶやき：（難民の方を思うと、何もできなくて、胸がつぶれそうで、祈りしかありません。）

6. 福島

1）福島に住み、被災者と生活を共にしているシスターたちから「福島の今」を学んでいる。
2）食器の油は、ふき取ってから、洗う。（下水や水の汚れ、下水をきれいにする微生物の働きを助けるため）
ソーラー蓄電、いざと言う時に役立つ。

7. Generative Listening
（心を使って、しっかり聞く）

「食べ物の声が聴こえました。」「可燃・不燃ごみの声が聴こえました。」「リユースごみの声も聞こえました。」と言う発想が生まれた。

8. 外部団体、NPO 法人「気候ネットワーク」への協力

この団体の冊子の購読も、福島からの声を直接聴くことも重要。

9. 人との共生

1）個人として：ともに祈る。
2）外国の方を応援して、共に集う。
（国境を越えた関わりを紡ぐ。今年度は主にメールで･･･）

10. 大自然は、そっと教えてくれる

大自然は、そっといのちの循環と神秘を教えてくれる。
1. 耕す　2.種蒔き　3.育む　4.実る

11. 共住する喜び

生ごみ処理と堆肥作り
自然の恵み・干し柿作り　おいしそう～～！

12. 高齢のシスターたちの祈り、天に響け！

コロナ発生から間もなく、国際 HP 上の祈りを、高齢のシスター方は、ほぼ 2 年間、毎日唱えている。この熱意ではコロナ菌もコロリ？

終わりに

この報告会は、どの共同体においても、地味な努力でありながら、聖心会の霊性である、みこころの想いから具体的な実践を手がけていることが感じられた。時には、無力感を感じながらも、地球規模の荒廃に真剣に取り組み、今できる事を互いに努力していることを確認し合えた時間となった。
昨年、国際 JPIC の冊子を毎月のテーマを決めて、祈りながら学んだプロセスがあったからこそ、今回の分かち合いが出来たと思う。この Zoom での報告会は、管区全体で参加出来て、JPIC が、関心のある一部の人だけの活動ではなく、全員が、なんらかの形で、関るものとなったことに意味があった。（JPIC 委員会）